

2025

1.29

(水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_vMh8RQqIT52UXpwqaGg92g

【技術支援】九州大学 Q-AOS

農業経済学研究における AI活用の可能性



Key Words

スマート農業

AI

農業生産の最適化

野村 久子 准教授

農学研究院 附属国際農業教育・研究推進センター

私は高知県出身です。太平洋に面した町で育ちました。海の向こうで何が起きているのか理解したいと、子どもの頃からいつも思っていました。このような海外に対する個人的な興味が、留学につながったのかもしれません。私の専門は、農業や資源利用における表明選好法やフィールド実験法などを用いた開発・環境経済学です。主な研究テーマは、エビデンスに基づく政策を提言するためのインパクト評価や行動変容に向けた研究です。持続可能な開発のためには、資源の利用者である消費者と生産者の行動変容が不可欠です。そのため、消費者と生産者双方の意思決定、資源利用の持続可能な利用や実践を促進する方法、新しい農業技術や持続可能な実践を採用するかどうかを研究し、それらの持続可能な利用（メカニズム）を確立し、最終的にエビデンスに基づく政策的含意を提供することに研究上の関心があります。

スマート農業とは、先進技術やデータ分析の活用だけでなく、農業生産を最適化し、効率を向上させ、環境への影響を最小限に抑えるための革新的な農業実践です。

持続可能な開発目標（SDGs）のもとでスマート農業を研究することは、持続可能性を促進し、食料安全保障を改善し、環境問題に対処するといういくつかの重要な世界的目標に直接合致するため、極めて重要です。日本では、農産物には規格がありますが、農産物に規格があるのは非常にユニークなことです。規格の定義は、味や風味よりも、大きさや色、形に関するものです。本セミナーでは、機械学習やディープラーニングが、農村経済を活性化させながら、農家の収入を向上させる可能性について発表します。